

## 《総説》

# 血栓症と炎症診断における血球標識イメージング

大 柳 光 正\*

要旨 Indium-111-oxine 標識血小板 scintigraphy (In-plt) および白血球 scintigraphy (In-WBC) は血栓や炎症の局在診断やその活動性が反映されるとして多数の報告がなされた。しかし近年、他の検査機器の発達や、その手技が複雑なことから、これらの検査を用いた報告は少ない。しかしながら非侵襲的であり、臨床に広く応用されると期待される。

1. 血小板シンチグラフィは血栓の視覚化や血小板凝集の活性化を判別することが可能と考えられ、多くの報告や総説があった。今回は循環器疾患における最近の文献とわれわれの症例を紹介し、血小板標識血栓シンチの有用性を示す。

2. 白血球標識炎症シンチは一般的には炎症の検出に用いられているが、大動脈瘤や慢性期大動脈解離での症例を紹介し、大動脈の炎症や大動脈解離の予後評価に白血球標識炎症シンチの有用性を示す。

(核医学 38: 295-300, 2001)